

〔講演〕

開会挨拶

愛知大学学長 佐藤 元彦

小林 本日は「東亜同文書院大学から愛知大学へ」をテーマとした、長崎展示会・講演会にお越しいただきまして、まことにありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます小林と申します。よろしく願い致します。講演に先立ちまして、愛知大学学長、佐藤元彦よりご挨拶を致します。

佐藤 改めまして皆様こんにちは。愛知大学で学長をしております佐藤と申します。本日は、少しお足もとも悪いようでありますけれども、それにもかかわらず、また皆様それぞれに御用務がおありの中で、お忙しい中、このようにお集まりいただきまして、まことにありがとうございました。本日から明日にかけての展示会、また講演会に際しまして、ひとこと、大学を代表しましてご挨拶をさせていただきますと思います。

実は東亜同文書院大学記念センターというのが、立ち上がりましてのは1993年でございますので、今からちょうど20年前ということになります。愛知大学と東亜同文書院、あるいは東亜同文書院大学との関わりという点でいきますと、今日こちらにお見えの皆さんはすでにご存じではないかと思っておりますけれども、愛知大学が東亜同文書院大学の学籍簿や成績簿を受け継いだ、あるいは東亜同文書院大学の最後の学長は本間先生という方でございますが、本間先生が愛知大学の事実上の創立者であった、そしてもう一つ、展示にもございますけれども、東亜同文書院時代に始められておりました、当時は華日辞典と呼んでいたかと思っておりますけれども、中日大辞典の編纂作業が、その後愛知大学に受け継がれ

まして、そして1968年に初めて刊行されたと。そういうようなところを根拠に致しまして、東亜同文書院から愛知大学へということで、昨年度は実は沖縄で同じような展示会、講演会を開催しておりますし、その前はこのチラシにも書かれていますように福岡であるとか、北は弘前であるとか、そういったところで何か所か開催をしてきたところですが、来年度は広島でということもすでに計画をされているようでありますけれども、今後色々なところで更に展示会、講演会を重ねていくということを予定しているところでございます。

東亜同文書院大学と愛知大学、あるいは長崎ということでございますと、今日これからご講演をいただく横山先生はじめ、本学のスタッフの講演内容で具体的に明らかにされるのではないかと思いますけれども、愛知大学と長崎という点でぜひ触れたいと思っておりますのは、愛知大学の最初の学長の林毅陸先生という方でございます。林先生は、1872年(明治5年)、現在の佐賀県の唐津、当時は長崎県の東松浦郡という地名でございましたが、そちらでお生まれになりました。姓は林ではなく、中村でしたが、その後、養子に入れられて、林姓を名乗ることになりますけれども、元々の生誕の地は、実は長崎であったということでございます。それから私は16代目の学長なのですが、私よりも2代前の武田先生という方もやはり長崎のご出身です。そういう意味では16人の歴代学長のうち、2人が実は長崎の出身であったということは、やはり愛知大学と長崎は非常に関わりがあるなど感じている次第です。それから明日になるんでしょうか、本学の藤田名

誉教授の方から長崎出身の東亜同文書院生の話が出てくるかと思えますけれども、元々、東亜同文書院の卒業生は5000名ほどおられますが、半分は西日本、四国、中国、そして九州、さらにその半分、つまり4人に1人は九州出身でございまして、その中でも長崎というのは非常に多いということを知っております。そういう意味では長崎との関わりが出てきているのかなと改めて痛感をしている次第であります。

さて、愛知大学は、皆さんご存知だと思いますけれども、大学名は地名とは直接関係はございません。愛知県にございますけれども、だから愛知大学ということではなくて、知を愛する大学ということが元々の大学名の由来でございます。今年で、1946年創立ですので、創立67年目を迎えますけれども、創設時の当初はかなりいろんな地域から、それこそ北は北海道から南は沖縄まで入学生がおられまして、最近少しそういう意味ではかなり地元志向といえますか、地元との関わりが非常に強くなっていて、それ自体は否定するものでは全くないんですけれども、やはり卒業生、また東亜同文書院から愛知大学に入られた方々から少し地元志向が強すぎるというご指摘も受けておまして。実は私もそれは全く同感でありましたので、この間、新しい奨学金制度として、「知を愛する奨学金」制度というのを立ち上げております。具体的には年額50万円の給付でありまして、4年間で200万円ということになりますけれども、東海4県以外から一般入試で、推薦入試ではなくて、一般入試で受験をされて合格をされて入学をされれば、これは予約型ですので今年でいえば12月の中旬が予約の締め切りになりますけれども、予約をされている方については優先的に、今申しあげました金額の奨学金を給付するということを始めしております。今日、実はうっかりしたのは、パンフレット類に、その辺りの記載がありませんけれども、大学のホームページ等を見ただけであれば「知を愛する奨学金」ということで必ず出てまいりますので、お顔を拝見すると、おそらく息子さん、娘さんではなくて、お孫さんというあたりになるでしょうか、ぜひご関心があれば、今の情報を提供いただきたい

というふうに思います。ちなみに九州はまだ実績がございませんので、北陸であるとか東京であるとか、そういったところではその奨学金をもらって、実際に勉強している学生がおりますので、ぜひ九州からもそういう実績を出したいなというふうに思っております。ちなみに同窓会はこの九州でいえば北部九州、そして南九州というかたちで二つございまして、北部九州が福岡、大分、それから佐賀、長崎そして熊本。南九州が鹿児島と宮崎というふうな区分になっておりますけれども、同窓会の会合があるチャンスを狙いまして、私自身も実はその地元の高校を訪問して、直接校長先生なり副校長先生、教頭先生に、今の奨学金の話も含めて、ご案内させていただいているところでございます。今回ちょっと長崎では実現ができませんでしたので、次の機会にと考えているところでございます。

この機会に愛知大学とはどういう大学であったのかということ、いわば前身としての東亜同文書院大学との関係において、改めてご認識頂ければ大変ありがたいなというふうに思っております。だいぶ長くなってしまいましたけれども、最後に様々な形で応援を頂いております報道機関、それからトップの講師をお勤め頂く横山先生に改めてお礼を申し上げまして、私の挨拶と致します。2日間どうかよろしくお願い致します。